

自閉症者の心とデスクトップ音楽

下嶋 篤



千佳は私の娘で、自閉症と診断されています。自閉症は先天的な脳障害で、世の中の感じ方が他人と違っていて、しかも、それをうまく親や他人に伝えられないために、極度にストレスがつのり、奇異な振る舞いやパニック症状として爆発してしまふことがあります。

人は心の中を直接に見ることが出来ないのです、表に出たものから中を判断します。千佳が表に出すのは、その場に合わない言葉、叫び声、笑い、突発的な行動、他人を無視するかのような態度だけですので、小学校高学年までには、変な子、できない子、頭がおかしい子、という評価が固まっていました。親できえも、千佳の心の中が何か得体の知れないものでいっぱいなのではないかと感じてしまうことがありました。千佳はその意味で、とても孤独な子供でした。

そんなある日、小学校6年生の時に、千佳はデスクトップ音楽と出会いました。私は仕事の関係上、マッキントッシュコンピュータを自宅を使っており、ある時期から、GarageBandという音楽作成ソフトが自宅のコンピュータに入っていました。私は音楽作成にはまったくの素人ですが、千佳が小さい時から、おもちゃのキーボードで何時間でも遊ぶ子だったことが頭にあり、あるとき千佳の前でそのソフトを開き、私の分かる範囲で簡単に使い方を教えてあげました。なにぶん、コミュニケーションの難しい子なので、そのときはとくに強い反応は見せませんでした。しかし、その後、私が外出などでコンピュータを使っていないときに、ちよくちよくGarageBandを開けていたようです。そして、ほどなくたったある日、千佳が作業をしているところに出くわした私は、いまままで聞いたことがない曲がコンピュータから流れてくるのに気づきました。コンピュータの画面では、GarageBandのスコアが右から左へと流れています。もしかしたら、これは千佳が作ったのか？「千佳ちゃん、これ作ったの？」聞いても、もちろん返事はありません。しかし、千佳は曲を時々止め、一音ずつ足したり、場所を変えたりして、どんどん曲を完成させていっています。間違いない、これは千佳が作っているんだ。

それからというもの、千佳はものすごいスピードで次々に曲を完成させていきました。デスクトップ音楽に出会って2週間もたたないうちに作った「緑の探偵」という曲は、リズムセクションにベースが入っていないという問題はありますが、親が聞く限りでは、とてもドラマティックなギターのソロが入った完成度の高い曲でした。千佳はいったいつ、どうやってこんな作曲の技術を蓄積していたのだろうか。こうしたことはもちろん疑問でしたが、私と妻を何よりも感動させたのは、こんな美しいメロディが千佳の心の中に流れているという事実でした。私たちと同じように美しいものを美しいと思い、私たちと同じように美しいものにあこがれる。とても優しいメロディがあり、とてもカッコいいフレーズがあります。とても繊細なリズムがあり、とても清々しい曲調があります。千佳の表面的な振る舞いからは、けっして推し量ることができない千佳の心の中の美しいものが、デスクトップ音楽という道具を使って、私たちの前に突然立ち現れてきたのです。

「自閉症の子も心の中は同じ」ということは時々言われます。しかし、自閉症者と実際にかかわる中で、このことを実感できることはほとんどありません。私たちは、幸運にも次々に創り出される千佳の音楽を通じてこれを確信することができました。この確信に支えられ、それ以降の千佳と私たちの関わり方がどれほど変化したことでしょうか。

その後、千佳の同級生の小学校6年生の親の集まりで、千佳の作った曲を聴いてもらう機会がありました。千佳は、他の親御さんにとって「手のかかる、変な子」という印象ばかりだったはずですが、多くの方から、すばらしい曲だ、という反響をいただきました。その場に千佳はいませんでしたがおそらく、千佳がはじめて本当の自分の心の中を世間に表明した瞬間だったろうと思います。

中学生になり、作曲の専門家の宮下芳明先生に個人指導をうけて作曲の腕を磨き、宮下先生から「プロに近いのではないか」という評価を得るまでになりました。また、千佳が通う中学生のある石川県能美市の夏休み作品

コンクールでは、金賞を2年連続で受けてきました。その機会に、地域の博物館や福祉会館で開かれた作品展覧会において、千佳の作品はCDにセットされて展示されましたので、ご近所の人やクラス、学年の違う中学生など、多くの人に「あの変な子」の心の中をのぞいていただくことができました。千佳を知っている人ならきっと、千佳の表面的な振る舞いと、そこで流れる音楽のギャップに驚かれたことでしょう。

千佳は、自閉症に由来する奇異な振る舞いや衝動的な行動により、誤ったメッセージを周囲に伝え続けてきました。しかし、デスクトップ音楽という手段は、彼女の心に流れる美しいメロディを周囲の人々の耳に届けることを可能にしました。私と妻が何年かけても言葉という手段では実現できなかった千佳の心とのコミュニケーションを、デスクトップ音楽が可能にしたのです。これは、間違いなく、私と妻の夢の実現でありました。

おそらく、千佳自身は、自分の心の中を伝えることを自分の夢とまでは意識していないでしょう。しかし、千佳の曲は、自閉症者のもつ優しさ、繊細さ、清々しさを、音楽という、疑いようのない手段で示し、自閉症者が周囲に与え続けてきた誤ったメッセージを修正しています。これは自閉症者全体の夢の、ささやかな実現と云えないでしょうか。 **Dreams come true together.** 不思議なことに、千佳の曲の題名にもありました。

プロフィール

【応募者】

下嶋 千佳 (しもじま ちか) 中学3年生

(プロフィール)

1992年、父親が米国留学中に、インディアナ州で誕生。2～3才頃から、目が合わない、話し言葉が出ない、パニック症状を起こすなど、自閉的な傾向を示す。1996年帰国後、自閉症と診断される。2003年11才で高機能自閉症と診断される。そのころ、デスクトップ音楽と出会い、2005年4月から1年間、宮下芳明氏（現 明治大学専任講師）から個人指導を受ける。これまでに150曲以上を作曲。

【支援者1】

下嶋 篤 (しもじま あつし) 大学教員

(プロフィール)

応募者の父。

【支援者2】

下嶋 眞理 (しもじま まり)

(プロフィール)

応募者の母。

